

北海道新聞の報道に対し社外の委員に提言してもらう本年度2回目の「読者と道新委員会」が1日、札幌市中央区の道新本社で開かれ、事件・事故報道や地方からの情報発信、衆院選(10月22日投票)に関する紙面について議論した。5人の委員からは、事件・事故報道に対し「背景や人間の心理をよく取材している」との声や、衆院選報道について「選挙制度の問題に切り込んでほしい」との要望が出た。道新からは田辺靖編集局長らが出席した。

背景・課題 切り込んで



「読者と道新委員会」

読者と道新委員会

丹念な検証 再発防ぐ 図を多用 理解助けた 中野氏

事件・事故報道

近畿圏道で発生した事件や事故の報道は、多くの読者の関心を引く。その一方で、事件や事故の現場を、写真や映像、図やイラストを用いて、わかりやすく伝える工夫が、読者の理解を助けている。中野氏は、図やイラストの多用を高く評価している。



酒井 俊氏
帯広第一病院副院長
在宅ケアセンター長
帯広市在住



中野 由貴氏
函館山ロープウェイFMいるか
チーフパーソナリティー
函館市在住



坂口 唯彦氏
弁護士
札幌市在住



片桐 由喜氏
小樽商大教授(社会保障法)
小樽市在住



高橋 巖氏
札幌新聞社「ホープ」会長
上川管内東神楽町在住

中野由貴委員、事件や事故の現場を多用する「図」の多用を高く評価している。中野氏は、図やイラストの多用が、読者の理解を助けていると指摘している。また、事件や事故の現場を多用する「図」の多用を高く評価している。中野氏は、図やイラストの多用が、読者の理解を助けていると指摘している。

問題解決の視点弱い 高橋氏 続く記事が読みたい 坂口氏

地方からの発信

児童虐待被害者の方のニーズを適切に満たすことが、地方からの発信の課題である。高橋氏は、地方からの発信が、問題解決の視点に乏しいと指摘している。また、坂口氏は、地方からの発信が、読者の関心を引くことを期待している。

政治家の言動点検を 片桐氏

衆院選報道

政治家の言動を点検することが、衆院選報道の課題である。片桐氏は、政治家の言動を点検することが、読者の理解を助けていると指摘している。また、高橋氏は、政治家の言動を点検することが、問題解決の視点に乏しいと指摘している。

「これからの何をやるか」も大論だが、選挙報道は、読者の関心を引く。その一方で、事件や事故の現場を多用する「図」の多用を高く評価している。中野氏は、図やイラストの多用が、読者の理解を助けていると指摘している。

「これからの何をやるか」も大論だが、選挙報道は、読者の関心を引く。その一方で、事件や事故の現場を多用する「図」の多用を高く評価している。中野氏は、図やイラストの多用が、読者の理解を助けていると指摘している。

「これからの何をやるか」も大論だが、選挙報道は、読者の関心を引く。その一方で、事件や事故の現場を多用する「図」の多用を高く評価している。中野氏は、図やイラストの多用が、読者の理解を助けていると指摘している。